

## 第1章 はじめに

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠かせることのできないものです。

今日、高度情報化社会により、さまざまなメディアから発信される情報が、子どもの成長に大きく影響しています。また、核家族化や少子化により、親子の関わり、地域社会との関わりも変化してきています。そのことが、児童虐待やいじめ、犯罪の低年齢化と深くつながり、子どもをとりまく社会的環境を極めて厳しいものにしていきます。

乳児は、保護者や人とのふれあいと語りかけにより少しずつ言葉を習得し、喜びや悲しみなどの様々な感情を体験しながら成長していきます。

乳幼児期の読み聞かせは、人とのふれあいや心の発達等に大きな影響を与え、その後の子どもの心の健全な成長を促すこととなります。

そして、この体験を通して、自分の考え方や行動を見つめ直し、感性を磨き、新たな好奇心を燃やして、広い視野に立った自己との対話が可能になってきます。

近年、テレビやコンピュータゲーム、インターネットの普及や子どもを取り巻く生活環境の変化などにより、子どもの読書離れが指摘されています。子どもの成長過程で、読書の果たす役割はきわめて重要であり、子どもたちが豊かな読書活動を行っていきけるよう、環境を整えることが必要です。

国では、読書の持つ計り知れない価値を認識して、子どもの読書活動を国を挙げて支援するため、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を平成13年12月12日に公布・施行しました。平成14年8月には、この法律に基づく「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定・公表されました。

その基本理念は、「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備を推進」することです。

越谷市教育委員会においても、このような状況を踏まえ、1か月に1冊も読書をしない子どもが「ゼロ」になることを目指し、家庭・地域・学校等における今後の子どもたちの読書活動の推進に資するため「越谷市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

本計画は、平成21年度からおおむね5年間の期間を想定したものです。なお、これからの社会情勢等の変化に応じて、計画の見直しを適切に行っていきます。